

星つむぎの村 木の木だより No.17



星つむぎの村は、「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せを作ろう」をミッションに
プラネタリウム、星空観望会、星や宇宙に関するワークショップなどを展開している団体です。



★ぼく・わたしの絵本

「もしも月でくらしたら」山本昭三:作 村川恭介:監修 WAVE出版



宇宙飛行士が新たに採用され、人が月で暮らす日はもうすぐ。月から眺める地球はどんな形？ 月に短期滞在する満くんが地球のクラスメイトに「月での生活」をレポートします。月情報満載の一冊。

「あめだま」ペク・ヒナ:作 長谷川義史:訳 プロンズ新社



どこかで見たことある色や模様のあめだまをなめると、いろんなモノや人の本当の声が聞こえてきます。家のソファー、ペットの犬、口うるさいパパ、天国のおばあちゃん。さあ、どんなことがおこるかな。

★ティーンエイジの君へ

「ひと」小野寺史宜:著 祥伝社文庫



母が急死して独りになった青年。大学を中退、小さなきっかけからコロッケのおいしい惣菜屋で働くことに。ものごとは突然起ころ。その中で生きていく。そこには「ひと」がいる。彼の体温を感じて下さい。

「活版印刷 三日月堂」ほしおさなえ:著 ポプラ社



今の時代珍しくなった活版印刷屋。先代の店を復活させた若い主人が、街の人たちが心に抱えている悲しさ、嬉しさ、懐かしさを、活字として紡いで印刷します。人の想いが投影された文字が愛おしくなる連作小説です。

★トピックス...

7月7日は七夕。誰もがふと、星が気になる日かもしれません。七夕の星である、おり姫とひこ星は、天の川を挟んで輝く一等星のベガとアルタイル。梅雨空でなかなか星も見えないけれど、夜遅い時間に高く昇る2つの星とその間にある無数の星たちに、たくさんの願いをかけていくのもいいかもしれません。みんなの願いが、星に届きますように。

次号の発行は8月1日です。

星つむぎの村の活動はホームページやYouTubeでもご覧いただけます。

・星つむぎの村HP・<https://hoshitsumugi.org/>

★パパ・ママの本

「人生は一本の線」篠田桃紅:著 幻冬舎



「私はこういう線を引きたいと思って一本の線を引いた。しかし現実にできた線は思った線とは違う。人生も同じ。」104歳、墨を使った抽象画家の書画とエッセイ。寄り添い、離れる線が美しい。

「月の立つ林で」青山美智子:著 ポプラ社



ポッドキャストの「ツキない話」が不器用な面々に寄り添う5つの物語。ただそこにある月に気付かれる、見えてなかつた大切なこと、つながる思い。星つむぎの村のプラネタリウムを見た後のような読後感。

★みんな・みんな生きている！

「かもの プルップ」リダ・フォシェ:作 F・ロジヤンコフスキ:絵 いいいもご:訳編 童話館出版



子がものプルップは好奇心いっぱい冒険好き。8羽の兄弟たちと楽しく、ときに危ない目に遭いながら成長しやがて巣立っていきます。かもの生態が詩情豊かに描かれている心温まる絵本。

「小さな木」



「あるがままに子育て」野村直子:著 雷鳥社

樹木は、木の種類を超えて、根っこで情報伝達し、養分を分け合っているらしい。一本だけでは、強く、長く生きてはいけないという。素敵なイラストと余白は、肩の力を抜いてと語りかけてきます。



YouTube
QRコード

星つむぎの村の様々な活動
フライングプラネタリウムや
コンサートなど、
YouTube配信も
ご覧ください。



編集・発行

一般社団法人 星つむぎの村
〒409-1502
山梨県北杜市大泉町谷戸6587-2
☎ 0551-88-9027
✉ •book@hoshitsumugi.org
HP•<https://hoshitsumugi.org/>

